

持続可能な学術活動を目指して

◎伊藤 亜子¹⁾
岐阜大学 医学部附属病院¹⁾

【はじめに】

昨今、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより学会や研修会の参加方法がWEBによる参加形式が増加し、遠方に住んでいる人たちにとっても参加しやすい環境が整備されてきた。日本臨床検査技師会（以下、日臨技）主催の日本医学検査学会や支部学会では毎年多くの演題が発表されている。本シンポジウムでは、研究と学会発表を始めてみたい、あるいは継続していききたい方へ活動するためのきっかけをこれまでの経験を基に述べたいと思う。

【研究テーマのヒント】

私はルーチンの際に遭遇する「疑問」や「未経験の症例」について文献検索や医師に質問をしている。そこから、珍しい症例であれば症例報告として発表テーマに決定し、または同様の症例を収集し比較することで検討を行い発表のテーマにすることが可能である。医学検査などの論文を読むことや学会に参加し発表を聞きし、新たな知見を習得することで、「この場合はどうだろうか」など新たな視点からひらめくことで、新しいテーマを考えてみることも大切である。

私は2年間程、市中病院での勤務経験があり、その期間も学会発表は継続していた。市中病院と大学病院では規模が異なり、研究への取り組み方や遭遇する症例が異なってくると考える。大学病院では患者数が多く、また症例数が多岐に渡るため様々な検討や症例報告を行うことが可能である。しかし、市中病院の場合もテーマの考え方は同様であり、実施も可能である。市中病院ならではの症例もあるので、そのような特徴的な症例を検討課題にする事も良い機会であり、その他、院内での取り組み報告なども、有益な情報となる。

【抄録等の書き方】

抄録は論文や発表内容をコンパクトにまとめた紹介文であり、読み手に伝わるように書くことが必要である。抄録の構成は「背景」、「目的」、「方法」、「結果」、「考察」、「結語」からなり、既定の文字数内に収めることが必須である。初めて書く場合は、自分が発表するテーマに近い論文を多く読み、それを参考に書いてみるのが始めやすいか考える。

【国内学会、国際学会での発表経験】

私はこれまでに、国内および海外での学会発表をそれぞれ発表してきた。一番初めの発表は、誰しも緊張をするもので、発表までに多くの準備と練習に時間を費やした。徐々に国内での学会発表に慣れてきたら海外での発表に挑戦してみると良い。昨年、私は日臨技が世界医学検査学会（以下、IFBLS）への参加者を募っており、こちらを利用して初めて海外の学会へ参加した。昨年のIFBLSの開催国は韓国であり、発表形式は英語によるポスター形式であった。日臨技による発表の準備支援や滞在中のサポートもあり、無事に国際学会の発表を終えることができた。また、学会発表をした内容について論文化にすることで自分の実績を積み上げることも可能となる。

【まとめ】

持続可能な研究と学会発表を続けるために、もしくは始めてみたい方へ活動するためのきっかけを述べた。本シンポジウムを機に、初めの一步を踏み出すきっかけになることを期待したい。

（連絡先：058-230-7261）